

白山の火山活動解説資料（令和2年10月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図2）

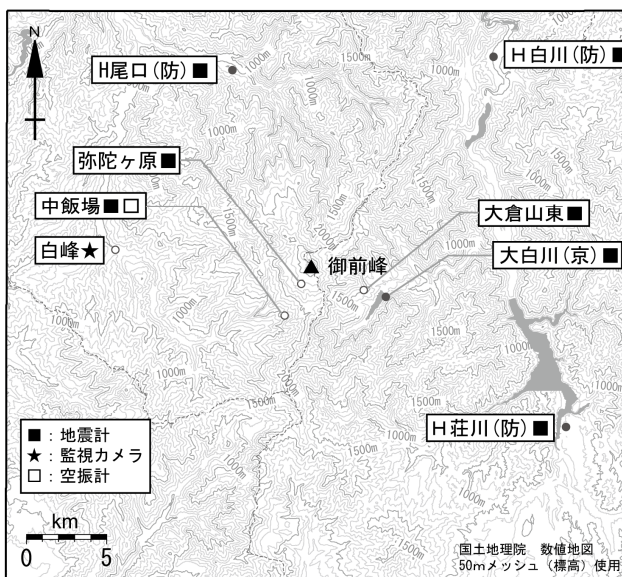
白峰監視カメラ（白山山頂の西約12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図3～4）

白山付近の地震活動は低調に経過し、火山性微動は観測されていません。

なお、21日に山頂（御前峰）付近北側のやや深いところが震源とみられる、振幅の小さな地震がやや増加しました。この活動に伴ってその他のデータに変化は認められていません。

白山では、これまでも一時的な地震の増加が時折発生しており、今回も同様の活動とみています。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学防災研究所

図1 白山 観測点配置図

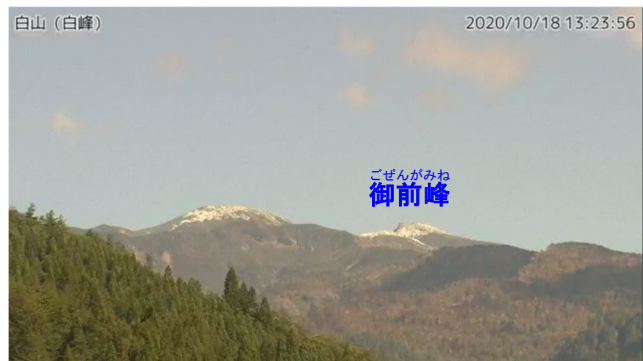


図2 白山 山頂部の状況
(10月18日 白峰監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和2年11月分）は令和2年12月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

【計数基準の変遷】

開始 2005年12月1日～2011年9月30日 弥陀ヶ原：振幅1.0 μ m/s、S-P時間1.5秒以内
 変更① 2011年10月1日～2014年9月18日 中飯場：振幅1.0 μ m/s、S-P時間1.7秒以内
 変更② 2014年9月18日～ 弥陀ヶ原：振幅1.0 μ m/s、S-P時間1.5秒以内

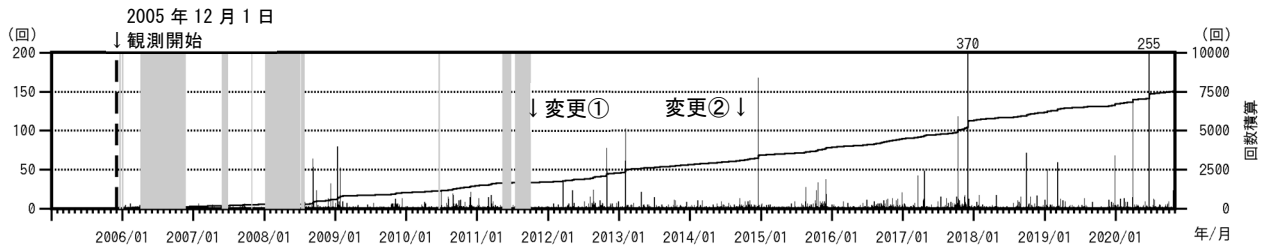
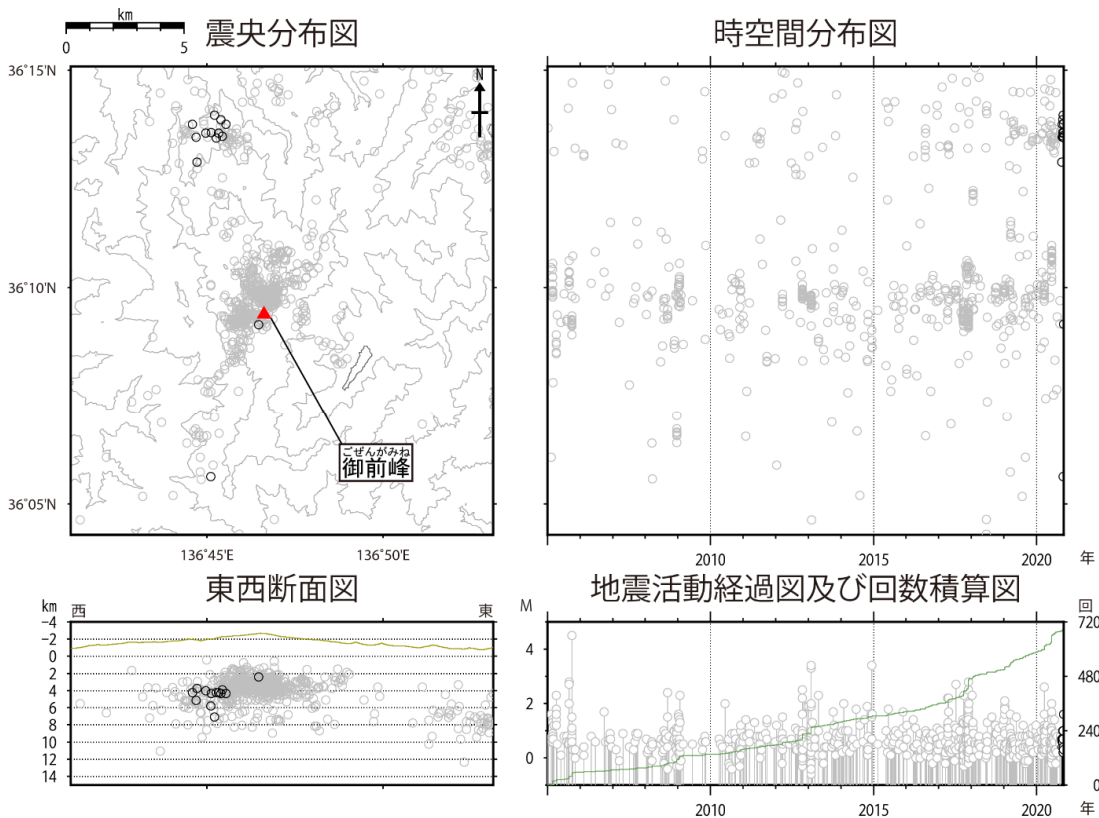


図3 白山 日別地震回数と積算回数（2005年12月1日～2020年10月31日）
 図の灰色部分は機器障害による欠測期間



○：2005年1月1日～2020年9月30日 ●：2020年10月1日～10月31日

図4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005年1月1日～2020年10月31日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

図中のマグニチュード、震源位置は暫定値で、後日、変更することがあります。

2020年11月10日現在、2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

2020年9月以降の震源は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められています。

- ・今期間、震源は主に御前峰北側の海面下3～7km付近に分布しています。
- ・21日に山頂の北側付近のやや深いところが震源とみられる振幅の小さな地震がやや増加しました（広域地震観測網では震源決定されていません）。この活動に伴ってその他のデータに変化は認められていません。
- ・白山では、これまでも一時的な地震の増加が時折発生しています。最近では、2020年6月19日から20日にかけて、山頂（御前峰）付近北側のやや深いところを震源とする地震が増加しました。